

札幌版次世代住宅に関する調査 集計結果

1 調査目的

札幌市内における札幌版次世代住宅の普及状況や普及に向けた課題を把握し、今後の普及促進策の検討資料とします。

2 調査対象期間

2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

3 調査対象・調査形式

以下のいずれかに該当する 97 社を対象としたアンケート形式とします。

- ・ 2023 年度に札幌市にて戸建て住宅の確認申請を 5 棟以上行った事業者
- ・ 2023 年度に札幌版次世代住宅性能評価を受けた事業者

4 調査実施期間

2024 年 7 月 12 日～2024 年 7 月 31 日

5 調査内容

- ・ 事業者が設計する新築戸建て住宅の省エネ性能や気密性能について
- ・ 札幌版次世代住宅について
- ・ 既存住宅の断熱性能について

6 回収結果

- ・ 回答数：38 社（回収率 39.2%）
- ・ 着工件数換算の回答数：2,092 戸
（2023 年度の確認申請戸数：3,757 戸に対する 調査対象戸数の割合 55.7%）

7 調査内容の変更について

令和 5 年度の札幌版次世代住宅基準の改正についての各事業者の認知度や、太陽光発電設備、蓄電設備の推進の考え方など。

8 調査結果について

回答のあった事業者が新築した戸建住宅の中で、札幌版次世代住宅基準ブロンズ相当以上（ U_A 値 0.40 以下）の断熱性能を持つ住宅は、前回調査の 86.6%から 7.5%上昇し、94.1%でした。このうちシルバー相当以上（ U_A 値 0.28 以下）の住宅については、前回調査の 24.7%から 16.1%上昇し、40.8%でした。

なお、本調査は、アンケート調査で回答のあった事業者の回答を集計したものであることから、本市全体の実績を示しているものではありません。

※（参考）直近 5 年の調査結果

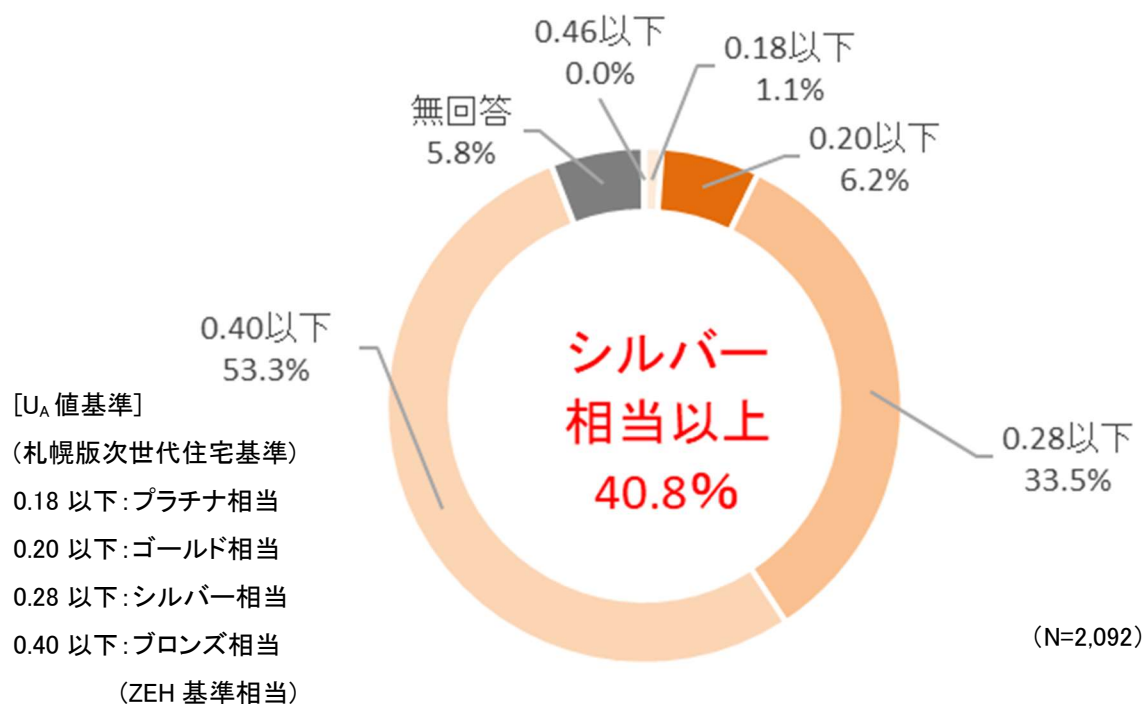
	2020 2019 年度分	2021 2020 年度分	2022 2021 年度分	2023 2022 年度分	2024(今回) 2023 年度分
シルバー相当以上 (U _A 値 0.28 以下)	29.4%	39.1%	40.7%	24.7%	40.8%
ブロンズ相当以上 (U _A 値 0.40 以下)	60.2%	73.0%	79.0%	86.6%	94.1%

※端数処理(小数点第二位以下四捨五入)の関係上、構成比(%)の計が100%とならない場合があります。

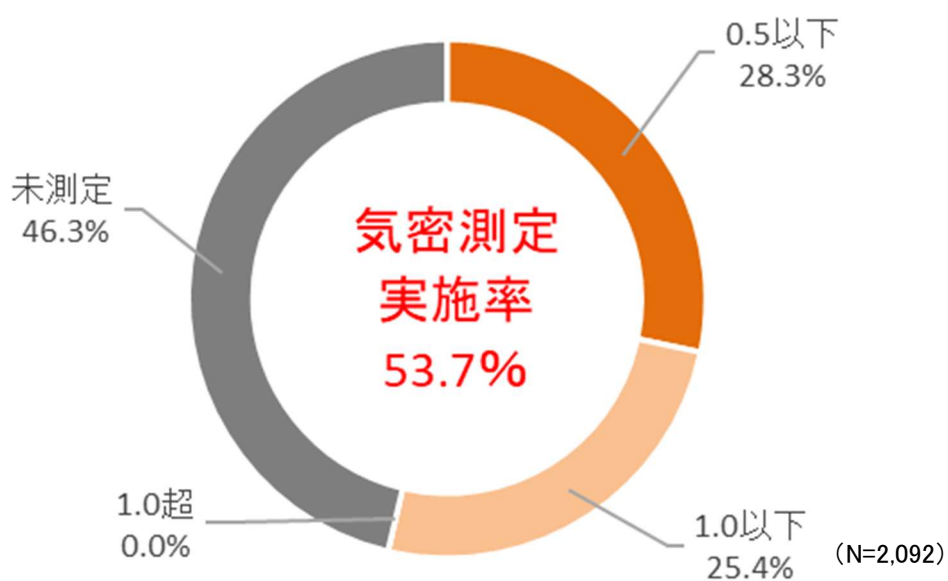
新築戸建て住宅の省エネ性能について

<2023 年度に着工した戸建住宅の性能(実績戸数)>

○外皮平均熱貫流率(U_A 値)のおおよその内訳

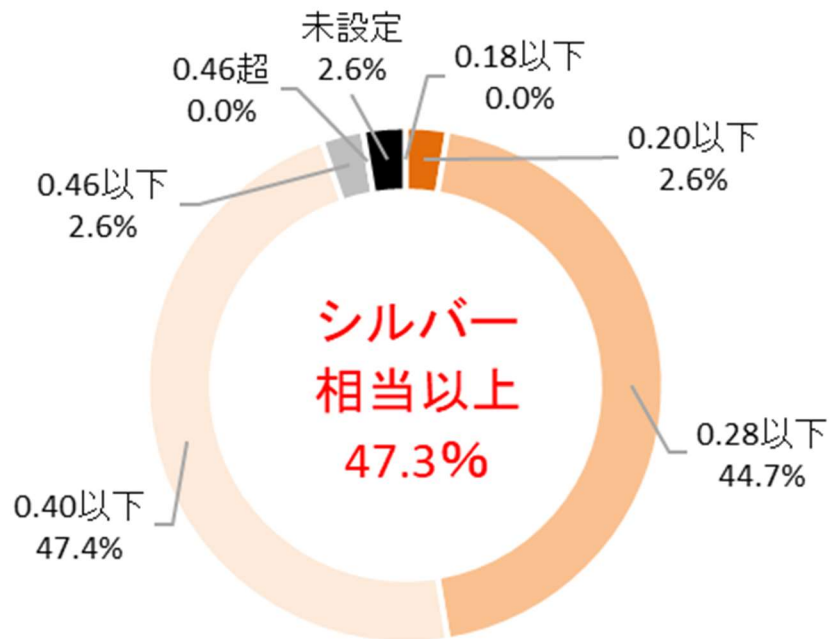


○相当隙間面積(C 値)のおおよその内訳



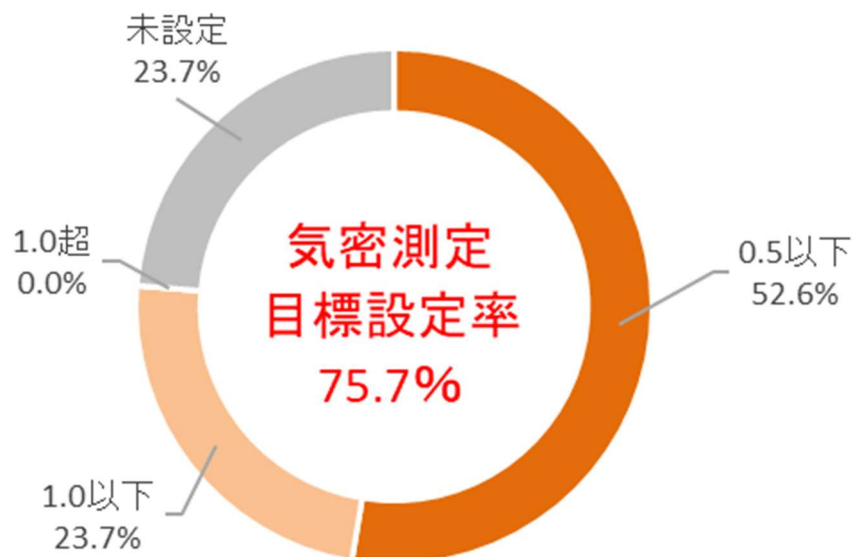
<標準仕様としている住宅の性能>

○外皮平均熱貫流率（U_A 値）の内訳



(N=38)

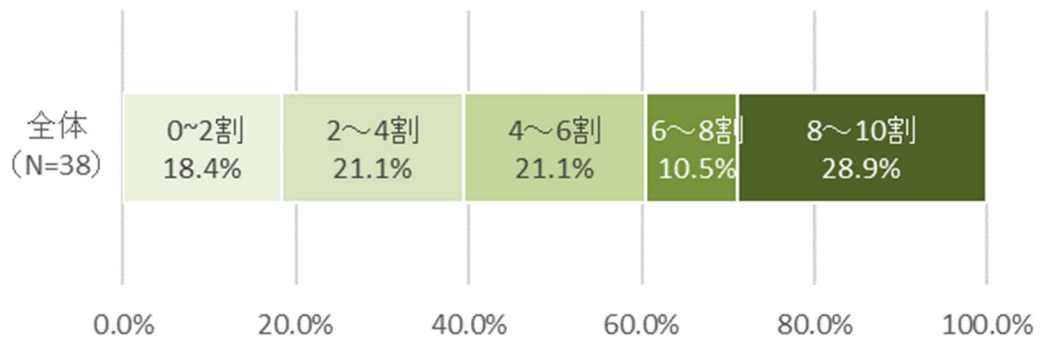
○相当隙間面積（C 値）の内訳



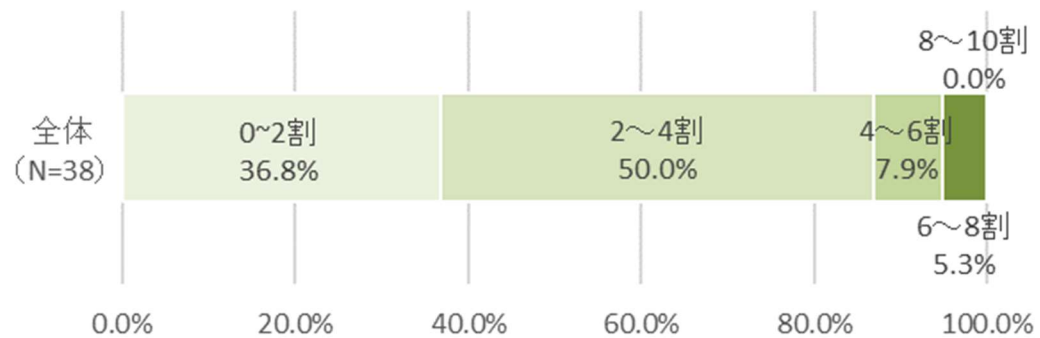
(N=38)

札幌版次世代住宅について

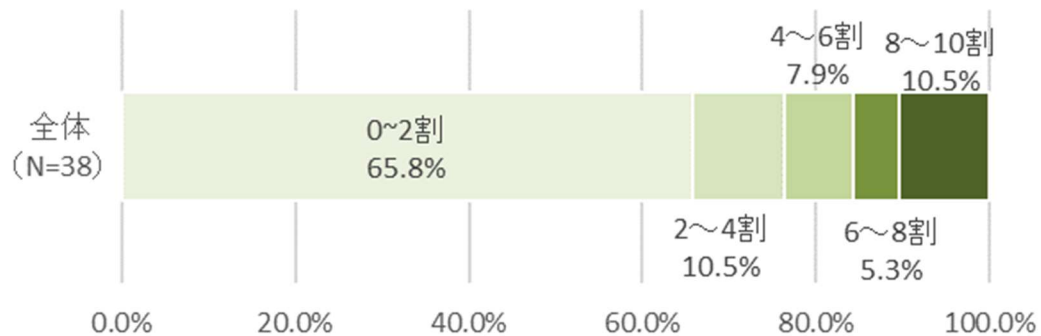
○従業員の札幌版次世代住宅の認知度



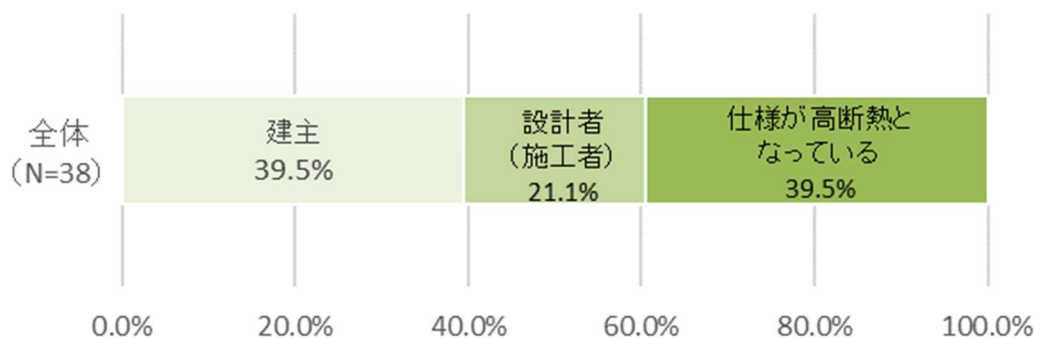
○建主・買主の札幌版次世代住宅の認知度



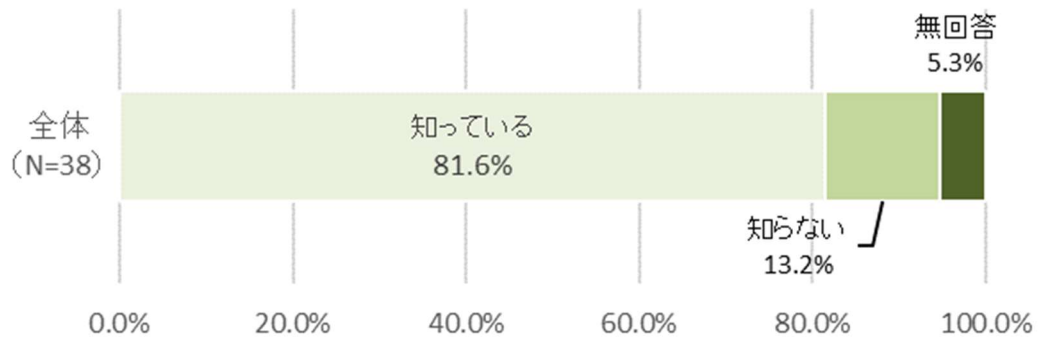
○高断熱住宅（ U_A 値 0.20 以下）を希望する建主・買主の割合



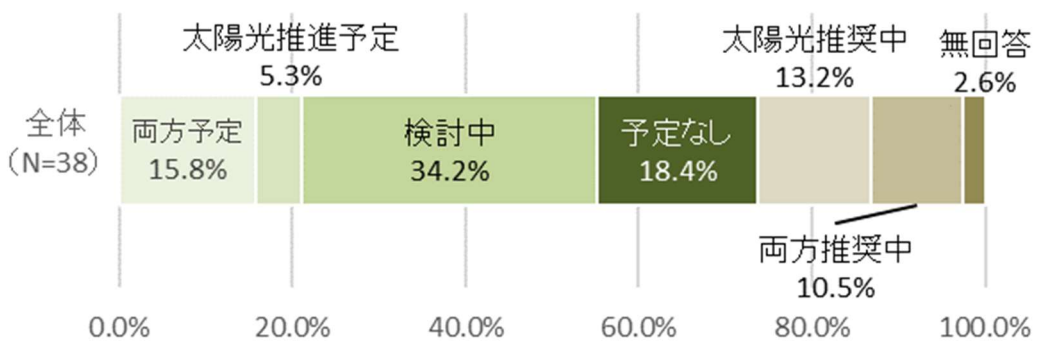
○高断熱住宅（ U_A 値 0.40 以下）を建築する場合の提案元



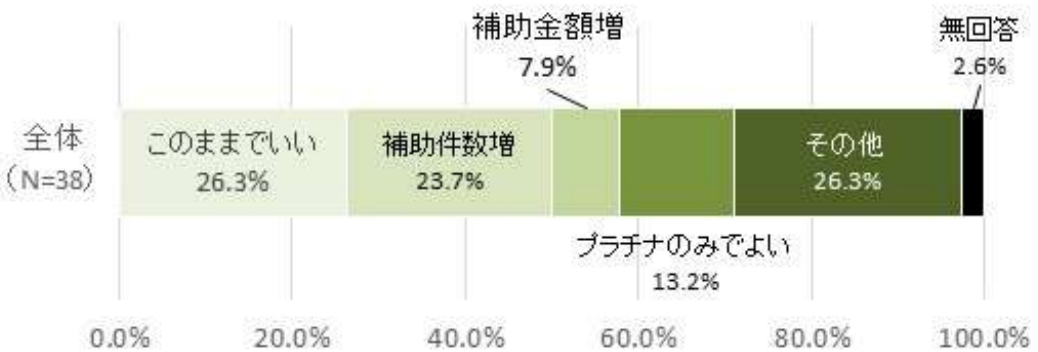
○令和5年度に改正された札幌版次世代住宅基準の事業者の認知度



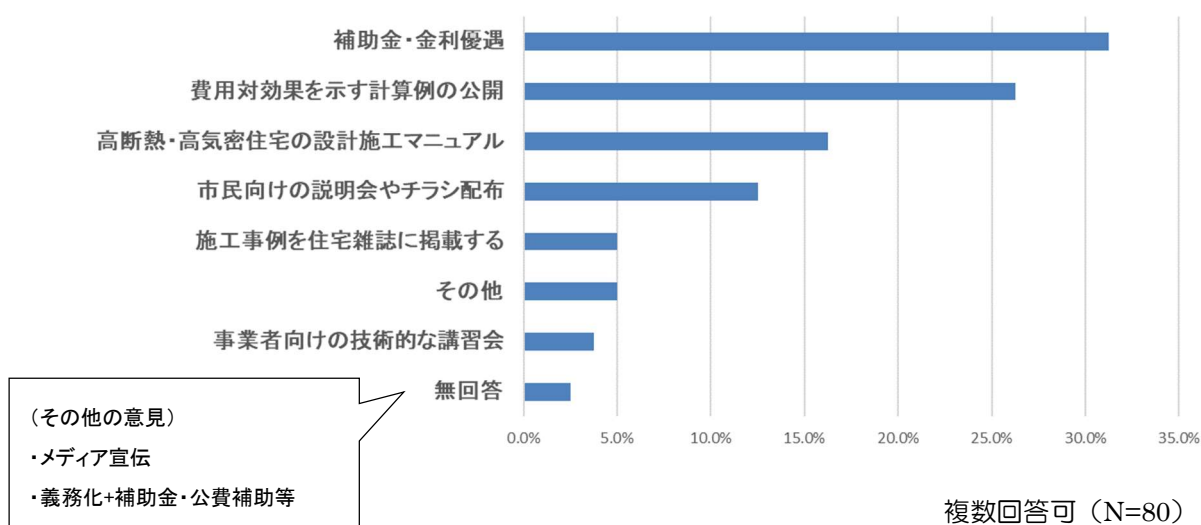
○太陽光発電設備・蓄電設備の施主に対しての推奨度



○令和5年度の補助制度の見直しについて

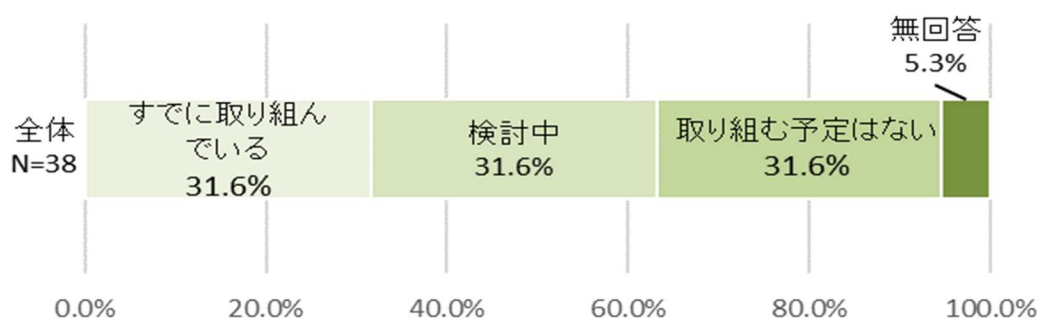


○高断熱・高気密住宅が普及するために必要な支援策

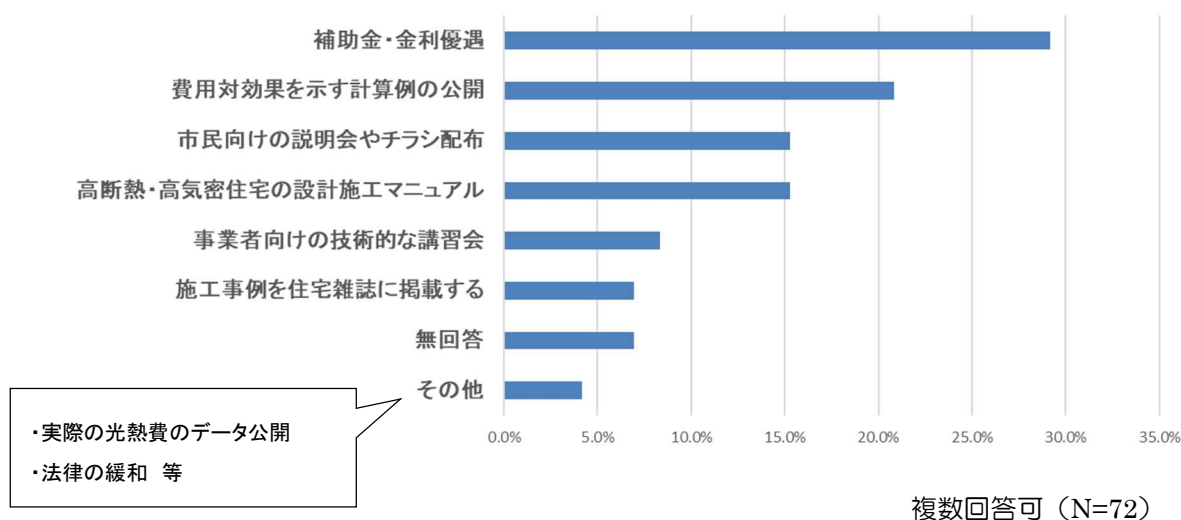


既存住宅の断熱改修について

○既存住宅の断熱改修事業への取り組み状況



○既存住宅の断熱改修が普及するために必要な支援策



○自由意見

札幌版次世代住宅基準に関するご意見

- ・環境省・経済省の ZEH、HEAT21、北方型住宅等、いろいろ基準や審査の違いがあって大変です。すっきりさせてほしい。
- ・高断熱化することでどれぐらいの光熱費の削減があるのかを札幌市として公表してほしい。そうゆうデータもあるが、どれも基準があいまいで、本当に光熱費が削減できるのか不安な人が多い。
- ・C 値の基準をなくしていただきたい。
- ・要件の緩和をお願いしたい。
- ・外壁後退距離等の基準の緩和、100 mm程度であれば、設計しやすく、提案もしやすい。
- ・太陽光を載せる場合の札幌市の基準をわかりやすく整理してほしい。
- ・実際の光熱費のデータ公開（補助金対象者）。

補助制度に関するご意見

- ・プラチナの件数をもう少し減らしてもいいと思います。
- ・プラチナ、ゴールドのみでよい。
- ・プラチナの応募が多い場合にゴールドの枠が減るため、その方法であればプラチナのみの方が施主様も抽選結果に納得感があると感じました。
- ・札幌版次世代住宅の普及を目的とするならば、プラチナではなくシルバーの補助金額と件数を増やす方が全体の断熱性能の向上につながると思います。
- ・補助金の枠を大きくしてほしい（全体の予算）。
- ・持続的な税制優遇があれば、お施主様に進めやすい。
- ・補助金を 100 万円ぐらいに抑えて、10 年間電気料金の燃料調節費から各グレード毎割合を決めて値引きする（建設補助と光熱費補助）など、シルバー・ブロンズについても光熱費補助があれば、補助金（建設費）が無くても札幌版次世代住宅の建設が増えると思います。
- ・義務化＋補助金・公費補助。
- ・申請からもれた施主に対しての対応が難しい。
- ・性能（断熱・気密）はそこそこにデザイン（窓の大きさ）も重要。偏った制度にならないように補助金は不要かと思います。
- ・一般の方にもっとわかりやすくしてほしい。
- ・要件とスケジュールをシンプルにして欲しい（工事する側が上手くスケジュールにあてこめない）。
- ・制度は良いと思いますが、仕様書も当社対応可能ですが、その為の作業に対応する人員がいません。
- ・サポートシステムを形成。
- ・施主様より太陽光や蓄電池の話が出てくるようになりました。なかなか予算的に設置まで行きませんが、このような補助により設置可能な施主様が多くなり、政策は長期的に実施をお願いいたします。